

平成 15 年度地球温暖化防止活動推進員等 研修事業(宮城県)の結果報告

ストップ温暖化センターみやぎ事務局

1. 概要

ストップ温暖化センターみやぎでは、環境省からの委託を受けて、「平成 15 年度地球温暖化防止活動推進員等研修事業(宮城県)委託業務」を行いました。当業務は、これからの民生(家庭)部門における草の根の地球温暖化防止活動を推進していくために、推進員等を対象とした研修会を 6 回開催しました。

2. 研修会の内容

(1)研修会(1回目)

平成 15 年 10 月 25 日(土)、1 回目の研修会をフォレスト仙台で開催しました。講師には、東北大学大学院文学研究科教授でストップ温暖化センターみやぎのセンター長を務める長谷川公一氏をお呼びしました。



長谷川公一氏からは、これまでの公害告発型の環境保全活動から地球環境問題等、行政と市民団体等が協働で取り組む環境保全活動までの性格の違いについて、環境社会学の観点から解説していただきました。

その後、各受講者から自己紹介と参加の動機を話していただきました。エネルギー供給会社に勤めていた方、地域で省エネグループを作っている方と、多方面からの参加がありました。受講者の 1 人は「推進員になって地球温暖化を防ぐために役に立ちたい」と話していました。

(2)研修会(2回目)

2 回目の研修会は、平成 15 年 12 月 6 日(土)にフォレスト仙台で開催しました。講師には、環境カウンセラー、省エネアンバサダーとしてご活躍されている門田陽子氏と、東北芸術工科大学環境デザイン学科助教授の三浦秀一氏をお呼びしました。

門田陽子氏からは、「省エネでストップ!温暖化」というテーマで PowerPoint を使った模擬講座と、家庭でできる地球温暖化対策としての事例紹介、省エネグッズ・省エネ家電製品についてお話いただきました。



三浦秀一氏からは、家庭部門における地域の温暖化対策として、地域における地



球温暖化防止活動の推進や都道府県別の CO₂ 排出量等のお話をいただきました。また、家電製品の消費電力や待機電力を測定するエコワットやワットアワーメーターの使い方を説明していただきました。その後、受講者にテレビ、ビデオ、携帯充電器等の測定を体験してもらいました。

受講者からは、「家庭における実例が多くわかりやすかった」、「みえるようにするというキーワードが重要であると認識した」等の感想が多くみられました。

(3)研修会(3回目)

3回目の研修会は、仙台市勤労者保養所茂庭荘で平成16年1月17日(土)、18日(日)の一泊二日の集中研修を開催しました。講師には、せんだい・みやぎNPOセンターの遠藤智栄氏と、2回目に引き続き東北芸術工科大学環境デザイン学科助教授の三浦秀一氏をお呼びしました。

遠藤智栄氏からは、プレゼンテーション及びワークショップの説明と、ワークグループを作って、課題の「講座を作ってみよう」を発表しました。プレゼンテーションの説明では、プレゼンの内容や技術、心を教わりました。にっこりスマイルや発生練習が好評でしたが、難しいという方もいました。「講座を作ってみよう」では、各受講者が練りに練った企画を発表し合いました。



夕方からは、県・センター・受講者との、これからのパートナーシップ構築に向けての意見交換会を行いました。受講者からは、今後の活動体制や活動内容、情報交換、PR等について、多くの意見が出されました。



三浦秀一氏からは、地球温暖化における世界の情勢と地域に根ざした対策・検証の必要性等についてお話をいただきました。その後、ワークグループで課題の模擬温暖化診断「わ～っ！とびっくりエコワット」と、対策としてのアイデアを発表しました。受講者の熱心な調査結果や活発な意見により、大変有意義な研修会になりました。

(4)研修会（4回目）

4回目の研修会は、平成16年1月24日(土)にフォレスト仙台で開催しました。講師には、東北大東北アジア研究センター助教授の明日香壽川氏をお呼びしました。



明日香壽川氏からは、地球温暖化の現状と、科学的なデータによって予測される影響としてマラリアの分布拡大や農地・水量の変動等についてお話していただきました。その他に、COPや京都議定書の経緯や仕組み、カーボンビジネス、EU域内排出量取引等について解説していただきました。

受講者からは、CDMのプロジェクトに関すること、COPでの前川口環境大臣に対する評価、CO2削減の進捗状況等の質問が出されました。

(5)研修会（5回目）

5回目の研修会は、平成16年1月31日(土)にフォレスト仙台で開催しました。講師には、NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネットエドがわ理事、未来バンク協同組合理事長の田中優氏をお呼びしました。

田中優氏からは、あがらないコツとして、客感的なことを説明する立場にたつことが重要であり、これからの活動については「あきらめないこと」、「モラルに頼った活動はしないこと(誰でも取り組める活動)」を



心がけて欲しいというお話がありました。その後、省エネゲームの内容や遊び方について説明していただきました。また、家庭での省エネや、電力の需要に関すること、未来バンクの活動等についてもお話いただきました。

受講者からは、「推進員としての心構え等が大変参考になった」、「実践活動に基づいた迫力ある分かりやすい講義で大変参考になった」、「多面的なお話を聞き、今後の活動に助かった」という感想が多くみられました。

(6)研修会（6回目）

6回目の研修会は、平成16年2月7日（土）にフォレスト仙台で開催しました。講師には、環境自治体会議事務局長で全国地球温暖化防止活動推進センター・前センター長の須田春海氏をお呼びしました。

須田春海氏からは、地球温暖化問題について関心がある人が増えているのに、その人たちが行動に移さない理由、市民参加と合意形成の経緯や種類、あり方等について解説していただきました。

推進員制度については、例えるなら古い皮袋であり、そこに新しい酒を入れることが必要であるとお話いただきました。ライフスタイルの変化を上から強制すると、「贅沢は敵だ」の「敵」の前に、「す」を入れて、「贅沢はステキだ」派が増えてくる。普通に努力していくことが自然に反映されて、それが上手く社会の中に機能してく、そういう市民文化を創ることができると「ステキ」であり、そういう社会が創られると古い皮袋に新しい酒が入って、推進員の活動も「ステキ」だと評されるとお話いただきました。



3. 今後に向けて

(1)研修会についての課題と評価

受講者は年齢が20～70代と幅が広く、これまでの経歴や知識、経験も様々であり、推進員として行っていきたい活動の分野（家庭での省エネ活動の実践、インターネットを使った啓蒙活動、子どもを対象にした普及・啓発等）も多様な状況でした。研修会においては、知識のレベルに差があるのを十分に認識して、事前に研修のテーマだけではなく、どのようなことを研修するのか、予習として読んでおくべき書籍等の情報を与えるべきでした。このようなサポートを受講者に行っていれば、より有意義な研修会になっていたものと思われます。

研修会の内容については、1～3回目が一般的な温暖化問題の知識習得と、家庭における省エネの必要性や温暖化診断が中心であり、講師同士で内容が重なる部分もありましたが、各講師の特色のある内容（家庭での実践例や地域別の状況等）が

非常に好評でした。また、3回目のワークショップは、今までの講義とは違い受講者各々が自ら取り組んだ調査結果、意見等を発表する場であったので、積極的で活発な研修会でした。宿泊についても、横の繋がりができる良い機会でした。4～6回目は、世界的・全国的に活躍されている講師を招いての講演でした。専門的過ぎて難しいとの意見もありましたが、めったに聞けない内容とこれまでとは違う視点での話が、これからの推進員活動の方向性を与えるものとなり、また勇気づけられるものでした。講師については、各々が特色を持ち、含蓄があって新鮮な情報を与えてくれた非常に良いメンバーであったと思われまます。

課題としては、推進員が今後活躍していくためには、メールやインターネットを最低限のレベルで使いこなせる能力が求められ、当県の受講者は比較的高齢でメールを使えない方が半数以上いることから、IT分野の研修を組み込むべきであったことが挙げられます。

(2)これからの推進員活動について

3回目の研修会における意見交換回の際に、受講者からセンターや県に対して、これからの活動体制や活動内容、情報交換、PRについて多くの意見が出されました。センターとしては、今後も推進員を育てていかなければならず、受講者からの意見を踏まえて早急に活動体制（窓口、連絡手段、物品、マニュアル等）や活動内容（テーマ、対象等）等を整備しなければなりません。そのためには、想定されるセンターとの協力の形を具体化することが不可欠です。その後には生じるPRや人材発掘、スキルアップ等の課題については、県・推進員と連携して克服していかなければなりません。その手段としては、推進員の増員、定期的な研修会の実施等が有効であると思われるため、今後検討を行っていく必要があります。

2004年度から、宮城県内において宮城県地球温暖化防止活動推進員が活動し始めます。地球温暖化問題は、人類が誕生して以来、最も困難な問題なのかもしれません。この問題を克服していくためには、センター・推進員・県が連携して取り組むことが重要です。課題は山積みですが、まずは一刻も早く推進員とともにアクションを起こすこと、第一歩を踏み出すこと、そこから全てが始まるものと思います。